

社団法人組込みシステム技術協会
平成 20 年度事業計画書

自 平成 20 年 4 月 1 日
至 平成 21 年 3 月 31 日

{目 次}

I. 総 括..... 1

II. 事 業 計 画..... 2

III. 支部事業計画 9

I. 総括

我が国の経済産業を取り巻く環境は極めて厳しくなってきた。原油価格の高騰、サブプライムローンによる金融不安など先行きに明かりが見えない現状は、経済市況に不透明感を掻き立てている。

周知のように組み込みシステム (Embedded System) は、携帯電話、各種モバイル端末、デジタル家電、インターネット関連装置、自動車、宇宙飛行、産業機械・装置などあらゆる産業の根幹を支える重要な技術として注目されている。

一方、組み込み技術者の不足、システムの信頼性向上 (安心・安全)、人材の育成・養成、更なる技術の高度化など業界が抱える課題も少なくなく、当会には中核的存在の重要性が引き続き指摘される。

JASA では、協会名称を「組み込みシステム技術協会」に変更を契機に、大幅な会員増強を果たした。また、組み込みソフトウェアが日本標準産業分類に格付けされたことをきっかけに業界の将来について確固たる展望を示し、次代を切り開いていかななくてはならない踊り場に来ている。その為、業界、協会の「将来ビジョン」を策定し、経営体質の強化、技術力の向上、人材の育成など環境の拡充に尽力していく。

組み込み総合技術展、組み込みソフトウェア技術者試験など主要事業も堅調に推移した流れを受けて今年度は、諸事業の質・規模、組織の安定化、定着化を図ることに注力し、業界基盤を確固たるものしなければならない。

以下に平成20年度事業計画の概要を示す。

平成20年度重点事業項目

1. 将来ビジョンの策定
2. 組織の拡充改革を実施
3. ETWest2008 (組み込み総合技術展関西) の開催
4. ET2008 (組み込み総合技術展) の開催
5. 組み込みソフトウェア技術者試験 (ETEC) の実施、普及等運用強化
6. 組み込み技術に関するフォーラム・セミナー・研修事業の実施
7. 海外事業推進のための調査研究の実施
8. 東北支部の設立
9. 関連機関・団体との連携事業強化
10. 平成20年度自転車等機械工業振興補助事業の実施

II 事業計画

1. 運営本部

①組織の改革

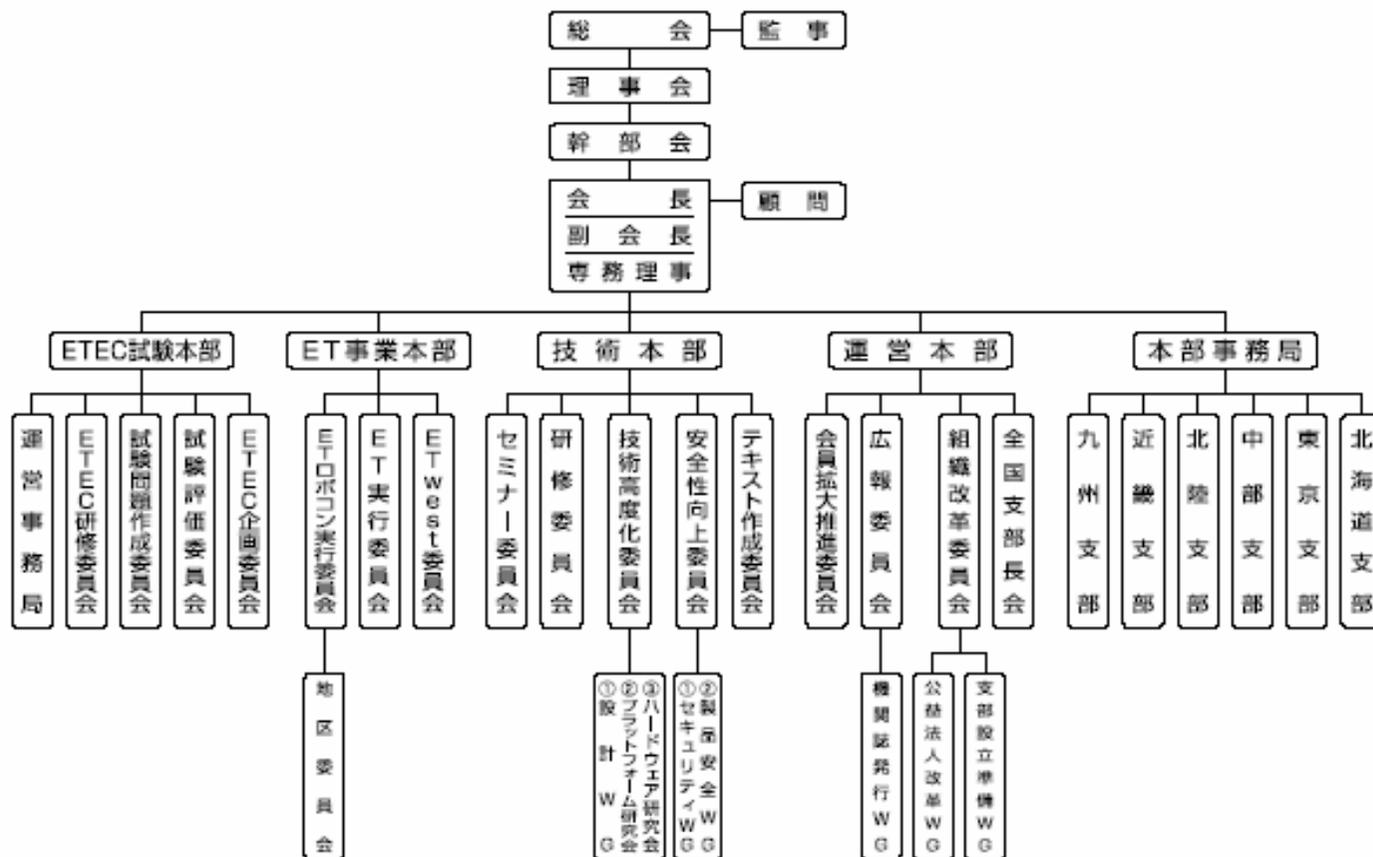
今年度は、公益法人改革が12月からスタートすることから当会の基本的姿勢等が再検討されることになるほか、新しい支部（東北等）の設立についても対応が不可欠の状況にある。このため、運営本部に組織改革委員会を立ち上げ、傘下に「支部設立準備WG」「公益法人改革WG」設置することとする。また、事業の重要性、将来へ取り組み強化策として、技術本部の下にあった試験委員会を独立させ「Etec 試験本部」立ち上げ、事業の本格化を図ることとする。

以下に新組織案を示す。

平成20年度JASA事業本部組織表（案）

本部名	委員会等	WG	備考
本部事務局	北海道支部		
	東京支部		
	中部支部		
	北陸支部		
	近畿支部		
	九州支部		
運営本部	全国支部長会		
	組織改革委員会	支部設立準備 WG 公益法人改革 WG	
	広報委員会	機関誌発行 WG	
	会員拡大推進委員会		
技術本部	安全性向上委員会	① 製品安全 WG ② セキュリティ WG	
	技術高度化委員会	① ハードウェア研究会 ② プラットフォーム研究会 ③ 設計 WG	
	研修委員会		
	テキスト作成委員会		
	セミナー委員会		
ET 事業本部	ET West 委員会		
	ET 実行委員会		
	ET ロボコン委員会		
Etec 試験本部	Etec 運営事務局		
	Etec 企画委員会		
	試験評価委員会		
	試験問題作成委員会		
	Etec 研修委員会		

組織図



2. ET 事業本部

① Embedded Technology 2008／組込み総合技術展

世界最大級の組込み専門技術展&カンファレンスとして開催。今年は規模内容の拡充を図るため、各種特設パビリオンや展示ゾーン等を企画新設する。またカンファレンスでは新プログラムによる企画構築を行う。

ET2008 開催要綱

名 称：Embedded Technology 2008／組込み総合技術展

会 期：2008年11月19日（水）～21日（金）

カンファレンス 11月18日（火）～21日（金）

会 場：パシフィコ横浜 展示ホール及び会議センター

後 援：経済産業省、横浜市、アメリカ合衆国大使館商務部、
英国大使館貿易・対英投資部（以上、申請予定）

入場料：1,000円（事前登録及び招待状持参者は無料）

応用テーマ：

Digital Consumer、Automotive、Mobile/Ubiquitous、FA/Robotics

開催規模（目標）：

出展社：450社（前回：445社） 展示規模：920小間（前回：913小間）

来場者：28,000名（前回：26,643名） カンファレンス：延10,000名

② Embedded Technology West／組込み総合技術展 関西

関西唯一の組込み専門技術展&カンファレンスとして開催。3回目の開催となる今年
は、規模拡充と発展的見地から会場をインテックス大阪に移し開催する。

ET West 2008 開催要綱

名 称：Embedded Technology West 2008／組込み総合技術展 関西

会 期：2008年6月5日（木）、6日（金）2日間（搬入・工事：4日）

会 場：インテックス大阪 5号館及び国際会議場

目 的：組込み技術（Embedded Technology）の高度化及び普及啓発を図り、近畿、
中部はじめ広く西日本における関連産業の発展に寄与することを目的

内 容： デジタル家電、携帯端末、カーエレクトロニクス、
FA／ロボティクス等、各種アプリケーション開発のキーテクノロジーとな
る「組込み技術」を取り上げた、西日本唯一の専門技術展&カンファレン
ス

後 援：近畿経済産業局、大阪府、大阪市

特別協賛：組込みソフト産業推進会議

協 賛：情報処理推進機構、関西経済連合会、大阪商工会議所、
（財）関西情報・産業活性化センター、ネオクラスター推進共同体
（社）トロン協会、近畿情報システム産業協議会、（財）大阪科学技術センター

展示規模：出展小間数 約190小間（昨年度183小間）

来場者目標 5,800名（昨年度4,823名）

カンファレンス規模：35セッション

受講者目標 2,500名（昨年度2,556名）

カンファレンステーマ：「関西発世界標準」

- ・関西からの“最新・先端情報発信”
- ・関西の“モノ作り”を支援

カンファレンス・プログラム

- ・基調講演／各界トップリーダーによる講演
- ・パネルセッション／注目の話題を深く議論
- ・テクニカルセッション／専門分野をより深く、より広く
- ・DSP・FPGA・アナログデザイントラック
／主要ベンダ、関連学会からの発表
- ・コミュニティセッション／関連コミュニティからの最新情報

③ E Tソフトウェアデザインロボットコンテスト（略称：E Tロボコン）

組込みソフトウェア分野の技術教育をテーマに、ソフトウェアの開発技術を競うコンテストとして開催。今年は、新たに東北、九州地区を加えた5地区にて教育及び競技を実施。またチャンピオンシップ大会を11月のE Tにて併催する。

開催要綱

地区大会

- 東北地区：8月31日（於 岩手県立大学）
- 関東地区：9月13日～15日（於 工学院大学）
- 東海地区：7月～8月未定
- 近畿地区：9月19日～21日（於 京都情報大学院大学）
- 九州地区：9月6日（於 福岡県産業・科学技術振興財団）
- 参加予定：250チーム見込み

チャンピオンシップ大会

- 11月19日～21日（於 パシフィコ横浜会議センター）

3. 技術本部

本年度より試験委員会を「E T E C試験本部」として独立させたことから、事業自体を「人材育成」「人材養成」「エンベデッド技術の普及啓発」など技術環境の整備を機軸に活動を推進させていくこととする。

①安全性向上委員会

17年度事業の「機能安全委員会」を「安全性向上委員会」と改名し、傘下に「製品安全WG」「セキュリティWG」の2つに分けて活動する。

前者は本年度新設するもので、機能安全を徹底的に追及しつつ、補助事業として実施する。後者は17年度の「セキュリティWG」として継続する。

製品安全WGは、安全設計の(a)基礎的研究、(b)機能安全認証取得済み製品の調査、(c)安全ニーズの調査、(d)安全性向上のためのモデル契約検討の4テーマを3年計画で進めていくが、本年度は(a)(b)を重点的に活動する。

セキュリティWGはIPAセキュリティセンターと情報交換を行いながら、ISMSの共同取得の可能性を探っていく。

②テキスト作成委員会

すでに協会編纂の単行本を4冊出版しているが、組込み技術普及のため、適宜発行していくこととし、調査活動を行なう。また、すでに出版済みの書籍に関しては、改定時の修正等に協力する。

③技術高度化委員会

当委員会傘下に「プラットホーム研究会」「設計WG」と20年度からスタートする「ハードウェア研究会」の3つの活動を中心に展開する。

会員各社のスキルアップ、技術高度化のためのグループ活動を支援する事業で、各

社の要請に基づいて結成されている。過去の活動結果を引き継ぎながらさらに今年度も新しい活動を支援していくこととする。

④研修委員会

組込みに関する基礎技術ならびに業界動向等を主体に研修を実施するもので、組込み分野への事業参入および組込み技術者の底辺の拡大等を図る目的で実施している。関連 I T 諸団体会員や支部開催による地方企業の受講を図ることで組込み技術の普及啓発を目指す。

⑤セミナー委員会

E T (組込み総合技術展／カンファレンス) の資産 (実績) を活用しつつ、各技術委員会やWGからの企画をセミナーとして運営することを主活動とする。独自テーマ、専門領域に特化した内容で今年度は昨年を上回る開催回数、集客増をはかり事業化を目指す。

4. ETEC 試験本部

今年度より技術本部から分離独立して「ETEC 試験本部」としてスタートする。ETEC の更なる発展と ETEC を通じた業界の活性化、人材育成・養成などの教育支援事業を行う。

従来 of 傘下 WG は、委員会として ETEC の本格的な事業化に向けて活動を強化する。

①試験問題作成委員会

- ・試験問題作成委員と試験問題チェック委員の設置
- ・試験問題作成委員の増強・増員
- ・クラス 2 試験の問題追加とクラス 1 試験の試作
- ・試験結果からの問題分析と質的改善

②ETEC 企画委員会

- ・「ET West」及び「ET2008」などのイベント実施計画と実行
- ・プロモーション活動の企画立案とマスコミ等との連携強化

③ ETEC 研修委員会

- ・教育会社との連携強化
- ・教育各社の研修コースと ETEC の連携強化
- ・ETEC 研修マップのリリースとバージョンアップ
- ・ETEC 試験対策講座の立案と実施
- ・ETEC 試験対策書籍の企画・開発支援

④ ETEC 評価委員会

- ・大手メーカー、ベンダーによる ETEC の教育効果などの検証
- ・評価結果による ETEC の品質改善と活用法の提示

⑤ETEC 運営事務局

- ・年間販売目標 3000 名 (165%UP)
- ・クラス 2 試験の再受験率アップのための活動強化
- ・トライアル受験、大学・専門学校での受験機会の促進
- ・ETEC 参考図書の開発促進 (特にクラス 1 試験)
- ・ホームページの改善・コンテンツの充実などによる受験者サービス向上
- ・ETEC の普及啓発等を図るため講演の活用を徹底する。
- ・IPA との連携、ETSS 準拠の促進
- ・情報処理技術者試験との役割分担、補完関係の推進
- ・関西経済連合会等の団体との連携・ETEC 活用支援体制の推進

5. 支部活性化推進事業

支部活動を活性化させるための施策を各経済産業局、地場産業、団体、学校などと「本部・支部総括支援部」と連携して積極的に進める。

- 1) 組込み技術を核とした地域密着の独自事業の推進
- 2) ニーズに対応した小集団活動の推進
- 3) 本部連携のフォーラム、セミナーの企画運用
- 4) 支部間交流会の促進と本部会議の支部開催の促進
- 5) 支部活動支援体制の強化／講師、教材等
- 6) 東北支部設立

6. 関連機関・団体との連携強化

情報処理推進機構／ソフトウェアエンジニアリングセンターをはじめ組み込み関連団体との連携を密にし、相互補完、支援協力を通して、組込み技術の普及啓発を推し進める。

そのため ET2008（組込み総合技術展）をはじめとする協会事業活動を有効に関連付け、連携強化を図る

7. 20年度自転車等機械工業振興補助事業の実施

今年度も組込みシステム開発（マイクロエレクトロニクス応用システム開発）を促進し、情報産業の発展に寄与するため財団法人 J K Aからの補助金を受けて、以下の事業を実施する。

- ①「ET 関西カンファレンス」開催及び支援事業
- ②組込みソフトウェア技術者育試験の拡充のための支援事業
- ③組込みシステムにおける機能安全に関する調査研究

8. その他事業の積み上げ

- 1) 企業力強化のためのワーキンググループ立ち上げ
企業を取り巻く環境は、時々刻々と変化し対応の厳しさが浮き彫りにされている。会員相互が経営資源に関する諸問題をテーマごとに現状を考える、共同研究の場を設定する。
- 2) 厚生年金基金、グループ共済保険制度の普及及び福利厚生施設共同利用
厚生年金基金制度、グループ共済保険制度を普及拡大するとともに、全国システムハウス業厚生年金基金と連携、資源の相互活用行う。また、福利厚生施設の共同利用を推進することにより、従業員の福利厚生事業を充実し、人材の確保に資する。
- 3) 若手社員交流会の実施
若手社員交流会を全国地域別に実施することにより、新事業展開に関する情報交流等を通じての自己啓発機会の拡大及び企業間連携の円滑化を図る。
- 4) 情報交換、意見交換の機会拡大

会員企業及び関係企業の業務協力、経営、技術に関する情報交換、意見交換を十分に行うため、例会その他の会合を積極的に開催する。

Ⅲ. 支部事業計画

<北海道支部>

1. はじめに

北海道支部は、小規模ながら会員企業の強い結束のもと、組込みシステム技術の啓蒙普及に努め、業界の発展に寄与することを最大目標としている。

そのため、関係団体と共同して各種展示会への出展、異業種交流など市場開拓・協業化につながる活動、会員相互のコミュニケーションを図るためのレク活動などを展開することと、会員拡大の為の活動を行うこととする。

2. 事業活動

組込みシステム技術の啓蒙普及に努め業界の地位向上を目指す。

業界団体と連携し、中小企業向け補助金、金融等の情報提供および有効活用を提言し、企業の一層の体質強化に努める。

行政への提言を行うほか、会員相互および異業種との協業化を推進し、事業機会の拡大を図る。

- ①組込みシステム技術の啓蒙普及のための研修・講習会を実施する。
- ②国・地方自治体等の事業公募・補助金・融資などの情報提供を行い、会員の財政基盤の強化・拡大を図る。
- ③異業種・他業種との意見交換・情報交換を行い、事業機会の拡大を図る。
- ④レクリエーション活動を実施し、会員相互の交流・健康増進を図る。
- ⑤会員拡大にむけ、北海道支部の戦略を検討・実行する。

<東京支部>

社団法人組込みシステム技術協会に協会名が改称されて第三年度目、「組込み」という名称が一般に周知されるようになり、組込み業界への産業界の期待も高まっている。この三年で東京支部でも約60社の新規加入があり、会員数では100社を越える規模となり、協会全体の会員数の約半数を占めるようになり、東京支部への期待が高くなっている。

しかし、「組込み」業界への参入が助長され、海外からの参入も増加しており、企業間格差が明白となり、好況といえども厳しい環境にあることは事実である。

一方、組込み技術者の確保、育成など人的課題も多い。IPA・ソフトウェアエンジニアリングセンターなど国や地方公共団体の組込みソフトウェア行政が活発化しており、当会もそれら団体と連携して役割を果たしていかななくてはならない。

東京支部としては、組込み技術の普及を事業の柱として、支部体制の連携及び効率化を重視し、昨年度に引き継ぎ本年度も会員増強、人材育成、会員間交流活性化を推進していく。また、本部が推進する JASA 改革にはその中心となって活動するとともに、ETWest への支援、ETEC（組込みソフトウェア技術者試験）、ET2008（組込み総合技術展）など全国の核となってリーダーシップを発揮していくことが望まれており、その役割を果たして行きたい。

1. 会議

- | | |
|-------|-----------------|
| ①支部総会 | 1回（5月） |
| ②常議員会 | 4回（4月、6月、9月、1月） |
| ③支部例会 | 3回（8月、12月、3月） |

2. 事業

1. 常議員会を推進役とする新規活動の推進

協会本部事業として実施される「組込みソフトウェア技術者試験」に対応したセミナーの開催など新規事業を企画・推進し、支部長を推進委員長とする推進委員会を設置し支部役員が率先してこれにあたる。

2. 人材高度化支援事業等の推進

組込み技術者育成について高い関心をもたれてきている。組込み分野においても技術の重要性、産業界の強い要請などから育成環境の整備を含めて積極的な取り組みが期待される。

エンベデッド技術に関する標準テキスト、研修用テキストの整備をはじめ初級技術者育成に注力してゆきたい。

実施にあたっては、関連団体（IPA/SEC、TRON 協会、TOPPERS、SESSAME など）と協調を図り、実りのある事業を実施していく。

3. 支部例会の開催

支部会員の交流促進、協会事業の周知徹底、業界動向の情報収集等を目的に、支部例会を開催し活用していく。例会には、学識経験者をはじめ専門家を招聘するほか会員の中からの情報提供を重視する方法を取り入れていく。

4. セミナー、研修事業、交流会の実施

- ・フレッシュャーズセミナーの開催
- ・ET セミナー等技術講演会の開催
- ・組み込技術者入門研修会の実施
- ・営業・管理者教育
- ・経営者セミナー及び交流会

5. 協会本部事業へ支援協力

- ・Embedded Technology 2008
（組み込総合技術展／パシフィコ横浜 11月19日～21日開催）
- ・平成20年度自転車等機械工業振興補助事業
 - 1. 「ET 関西カンファレンス」開催及び支援事業
 - 2. 組込みソフトウェア技術者試験の拡充のための支援
 - 3. 組込みシステムにおける機能安全に関する調査研究

6. 産学官交流の推進

大学、研究機関等との連携を図ることで新分野への進出、新技術の習得など会員企業の活性化を図る。

7. その他諸事業の推進

上記に属さない事業で、協会の発展につながる事業については積極的に対応する。新春賀詞交歓会、通常総会、納涼祭、支部ボーリング大会、団体保険制度、全国システムハウス業厚生年金基金の普及啓発。

<中部支部>

社会生活の高度化によって安心、安全、に対する期待がますます高まってきた。企業には常に安心、安全に対して細心の注意を払って生産活動をすることが求められていて、企業は自ら率先して製造物責任、法令順守に取り組む姿勢がこれまで以上に厳しく求められるようになってきた。

マイクロエレクトロニクス利用技術を駆使した高度なメカトロニクス技術を開発し社会に便利さを提供する企業活動を通して、ハード・ソフト両面のノウハウを蓄積してきた我々は、これからのさらなるユビキタス・コンピューティング社会の実現のために「組込みシステム技術の分野」において新しい方向性と可能性を探求しようとしている。モノづくりの根幹を荷っている組込みシステム技術者には常に高い利便性と高度な完成度を備えた製品の開発を心掛けなければならない。

我が国の産業集積地として活力を維持してきた当地域が、今後もその地位を保ち続けていくためには、当地域の得意分野といわれる輸送機産業、産業機械産業、電子産業に蓄積されている技術とノウハウを積極的に活用し、研究開発機能の強化や、地元理工系大学との連携の促進を一層図っていく必要がある。

こうしたことから、当支部では、組込システム技術業界の振興と会員相互の交流・啓発及び、地域産業経済の発展に資するため下記の事業を積極的に推進する。

1. 会 議
 - ① 総 会
 - ② 常議員会
 - ③ 定例会（情報交換会）
2. 組込みシステム技術等の普及・啓発
 - ① 講習会、講演会、説明会の開催
 - ② 組込システム技術セミナー
3. 組込みシステム技術者育成事業
4. 産学交流の推進
5. ミドル会の開催
6. 業界視察、研修
7. 広報事業
8. 会員交流事業
9. 年金基金への参加推進
10. 支援協力事業
 - ① 名古屋商工会議所事業への協力
 - ② 名古屋市工業研究所への支援協力
 - ③ 「エレクトロニクスショー」への協力

<北陸支部>

我が国は、2010年には世界最先端の「ICT国家」をめざし、「ユビキタスネットワーク整備」「ICT利活用の高度化」「利用環境整備」等を強力に推進しつつあります。また、日本のソフトウェア産業が、力を入れるべき分野は、ファームウェア・埋め込

みソフト・エンベデットシステム等の組込みソフトとされています。

このような状況のもと北陸支部においては、本部及び各委員会が実施する諸事業や行事を連携を密にして実施するとともに、地域の特性を考慮しながら、組込みシステム業界の発展と地域産業の振興を図ることを目的に以下の事業を推進する。

1. 定例会議の開催と支部活動の活性化

年数回の定例会議を開催し、事業計画の策定・実施及び進捗状況、業界動向等についての意見交換を行う等会員相互の交流と情報の共有化を図るとともに、他団体との協業活動を通じて支部活動の活性化に努める。

また、地元情報産業団体と提携し、産学官連携による産業振興策などの検討を行う。

2. 福井県 I T 革新検討会議への参加

福井県主催の「福井県 I T 革新検討会議」の会長（座長）として、「電子タグ等の最先端技術の事業化等」について、産学官での検討を行う。

3. 会員企業の研修、スキルアップ及び交流活動

「E T 2 0 0 8」「先進企業見学視察」等展示会・セミナー及び「組込みシステム（E T）勉強会」（産学官連携により実施）への参加を通じて会員技術者のスキルアップを図るとともに会員間の交流を進める。

4. 展示会への出展

地域開催の展示会等に積極的に出展する。

（北陸交流技術テクノフェア・ふくい I T フォーラム 2 0 0 8 等）

5. 広報活動

官公庁・業界団体への当会情報の提供等を通じての広報活動を推進するとともに、報道機関等のマスメディアを利用した P R 活動を行う。

<近畿支部>

<総括>

業界を取り巻く環境は、益々厳しく競争が熾烈になってまいりました。人材（技術者）不足による納期遅延、スキル低下による品質悪化等様々な要因が重なり経営を圧迫しています。

勝ち組、負け組みとの業績が明確になりつつ有るのが現状です。

支部活動に於きましては、今期は特に会員皆様の利益となる事を最優先に捉え、身近な事から活動内容を見直し、会員相互の共通課題とし事業活動に活発に取り組んで参ります。

各事業委員会（総務、企画委員会・技術、業務委員会・広報、マーケット委員会）活動を中心に据え、積極的に取り組んでまいります。

組込み総合技術展関西（ET West）の開催を通じ、会員企業・商品の P R に又、人材確保や社員教育の場となる様に定着させ、西日本の業界の発展と活性化に寄与して参りたいと思います。

<支部活動>

1. 近畿支部総会 年 1 回（4 月）

- ・平成 1 9 年度事業報告及び収支決算報告
- ・平成 2 0 年度事業計画及び収支予算報告

2. 常議員会 年 5 回（5 月、7 月、9 月、1 1 月、2 月）

支部事業計画に基づいた具体案の検討、審議を行う。

3. 事業委員会

支部では 3 つの事業委員会を柱に、各委員長が中心となって年間事

業計画を検討、実行する。各委員会はそれぞれの目的をもって活動を推進する。

- ・総務・企画委員会（業界経営基盤の強化、推進支援を図る）
- ・技術・業務委員会（情報処理技術の高度化対応を図る）
- ・広報・マーケット委員会（市場の開発と知名度向上を図る）

4. 本部との連携による活動推進

本部活動への参加、協力、支援を行う。また、本部の協力を得て支部の事業活動を活性化し、相互連携を推進する。

5. 行政や他団体との連携・協調推進

他団体及び関連先との交流・連携を行い、会員企業に有益な情報を随時提供する。

- ・近畿経済産業局
- ・近畿情報システム産業協議会（K I S A）
- ・関西電子情報産業協同組合（K E I S）
- ・大阪科学技術センター（O S T E C）
- ・ネオクラスター推進共同体

<委員会事業活動>

1. 総務・企画委員会

(1) 総務交流フォーラム（総務諸問題研究部会）

各社管理部門担当者の人材育成を目的に3回程度開催する。

各社が抱える問題をテーマに取り上げ講師を招聘、討論を交えたセミナーとする。また、各社のネットワーク強化も図る。

(2) 賀詞交歓会

近畿情報システム産業協議会（K I S A）加入9団体主催での開催は参加者が年々増加の傾向にあり、業界他団体企業との交流を更に広げる。

(3) 新入社員ビジネスマナー研修

関西電子情報産業協同組合（K E I S）との共催で、新卒採用者のビジネスマナー研修を4月上旬に行う。新入社員としての基本マナーを習得することが出来、社員教育の一環を担う。

(4) 会員交流会（ファミリークラブ）

全国システムハウス業厚生年金基金よりの補助事業として本年度も開催する。最近は音楽とゲームを楽しむ企画が定着、各社福利厚生事業として活用戴く。

2. 技術・業務委員会

(1) 技術交流フォーラム（ITシステム研究会）

各社技術系担当者が会員会社を訪問。市場開発フォーラムの営業担当者と同様で、技術、営業それぞれの立場から各社の問題点を議論する。現場で必要とされている情報収集、他社との交流によるネットワーク作りを目指す。本年度は4回程度開催。

(2) 会員月例会（近JASAフォーラム）

常議員会終了後、年5回開催する。

会員企業間の意見交換、情報交換を行い、参加者の交流を深めることを目的に行う。会員企業紹介・開発製品PRを行う他、他団体からの有益な情報等も提供する。

(3) 技術セミナー

本部の協力を得て、会員企業技術者の育成と技術力アップを目指したセミナーを開催、企業内ではできない研修の場を提供する。

また、組込み業界に関わる若手獲得に、専門学校等での組込み入門セミナー開催にも取り組む。

3. 広報・マーケット委員会

(1) 市場開発交流フォーラム（ビジネス開発研究部会）

各社営業担当者が会員会社を訪問。企業が持つ優位点、抱える問題点等をテーマに話し合う。各社それぞれの営業戦略に結びつけ、営業促進を目指す。本年度は4回程度開催、企業間ネットワークを強化する。

(2) 国内・海外視察研修

支部では「アジアのコンピュータビジネス」の実現に取り組んできた結果、中国、韓国視察を行っている。本年度も継続事業とする。また、国内でも同業、異業種企業の施設訪問、研究機関の見学も実施する。

4. E T - W E S T 2 0 0 8（組込み総合技術展・関西）

3年目となる組込み専門技術展示会及びカンファレンスの開催に取り組む。日程は6月5日・6日の2日間、会場はインテックス大阪を使用する。昨年を上回る出展社、来場者を見込んでいる。

5. その他

(1) 他支部との交流

会員企業の事業強化を目指して各支部との交流を推進する。

(2) 会員交流会

会員交流会を年に2回程度（夏の懇親会、忘年会）、また親睦ゴルフコンペも企画し、会員相互の交流を図る場を提供する。

(3) 会員増強

継続して会員企業にご紹介をお願いする。また、E T - W E S T 開催、組込み技術者試験実施を会員増強に繋げる。

(4) 組込み技術者試験

H 1 8 年 1 1 月より J A S A がスタートさせた E T E C 試験を会員企業での人材教育ツールとして役立てる他、業界団体に広く P R し試験の認知度を上げる。

<九州支部>

九州経済は、北部九州の自動車関連産業の輸送機械や電子部品・デバイスなどの半導体関連産業を中心に高水準の生産に向かう動きがみられ、設備投資においても自動車関連などの製造業で工場新增設や能力増強の積極的な投資が引き続き活発化し、また半導体関連、鉄鋼等の他、非製造業にも投資が波及するなど九州を生産拠点化とする流れが顕著であるなど、全体としては緩やかながら景気は改善しているとみられております。

一方、個人消費は一進一退の横ばいの動きであり、雇用情勢では大分県を除く他の県で足踏みがみられ、工場立地の進展に伴い専門・技術職に人手不足感が拡がりつつあります。

そのような中、当支部の会員企業としましては、九州地域産業の基幹である、自動車産業や半導体産業などの拡大を背景に、その機器に搭載されるソフトウェアの品質・性能などの価値を高めるほか、新製品の開発や人材の確保・育成及び技術力の強化が最も

重要であると言えます。

今後、九州における組込みシステムの底辺拡大及び拠点化に向け、官公庁や大学・他団体等の関係各機関との連携強化、情報の共有化及び人材育成を活発化させるとともに、会員企業間の交流を通じ、「組込みソフトウェア業」の発展を図るため、次の事業を実施します。

1 定例会の開催と支部活動の活性化

- ・ 常議委員会 年6回 (4月総会)
- ・ 経営情報交流会 適宜
- ・ 各種セミナー 適宜
- ・ 九州・国際テクノフェア等への出展 年1回
- ・ E T ロボコン九州地区大会 年1回

2 広報活動

- ・ 年金基金活用によるスポーツ交流会
- ・ 官公庁、他団体との情報交換
- ・ 支部ホームページの活用及び充実

3 共催・支援事業

- ・ 九州地域組込みシステム協議会(ES-kyushu)
- ・ 福岡市組込みソフト開発応援団
- ・ 九州組込みソフトウェアコンソーシアム(QUEST)